

大県郡条里遺跡 第2回現地公開資料



平成26年8月21日（木）
大阪府八尾土木事務所
公益財団法人大阪府文化財センター

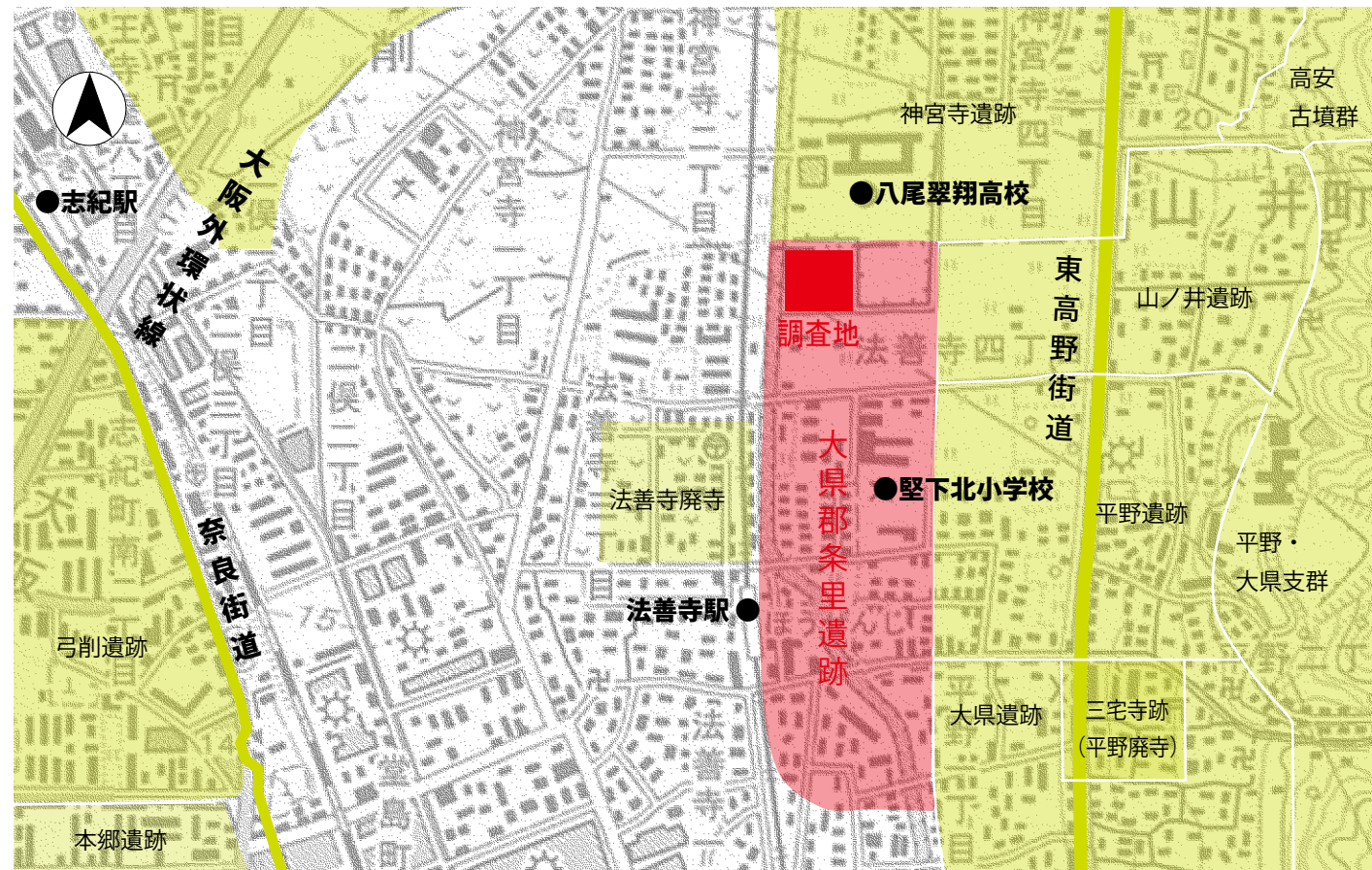
1. はじめに

大県郡条里遺跡は、柏原市法善寺2・4丁目、平野1丁目に広がる遺跡です。「大県郡」とは、古代に定められたこの地域の名称で、周辺の地割がこの頃に整えられた「条里制」の姿を残している可能性があることから、この遺跡名がつけられました。

周辺には、古墳時代（5～6世紀）の鍛冶工房かじこうぼうが発見された大県遺跡や、奈良時代に次々と建設された古代寺院（河内六寺）など、多くの著名な遺跡が存在しています。この

ため、この地域は早くから、歴史文化に恵まれた土地であったといえます。

大阪府八尾土木事務所は、平成23年より一級河川恩智川法善寺多目的遊水地設置に伴う発掘調査を公益財団法人大阪府文化財センターに委託し、以後、調査を進めてきました。その結果、縄文時代から中世の遺構や遺物を多数発見しました。今回は、現地公開を通じて、これまでの成果をいち早く、地域の皆様にお知らせします。



大阪府地図情報システムの地図データをもとに、国土地理院 S = 1 / 25,000
「大阪南東部」平成20年10月19日発行、「信貴山」平成19年5月1日発行に加筆。

0 (1:10,000) 500m

図1 大県郡条里遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 発掘調査からわかったこと

今年度の大県郡条里遺跡の調査では、

- ①縄文時代晩期の集落跡
（紀元前1,000年～500年頃：約2,500年前まで）
- ②弥生時代から古墳時代に掘られた溝の跡
（紀元前500年～紀元後600年頃：約2,500年前から1,400年前まで）
- ③平安時代の水田跡（10世紀頃：約1,100年前）などを確認しました。

① 縄文時代晩期（紀元前5世紀頃）

今から約3,000年前（縄文時代後期）、遺跡周辺には旧大和川によって運ばれた川砂が流入し、いくつかの起伏ができました。やがて縄文時代晩期（紀元前500年頃）になると土地が安定し、人々は水はけのよい高まりの上で焚火をしたり、建物を建てて暮らしはじめます。

この頃の人々は、狩りやドングリなどの木の実を採集して生活していました。今回の調査でも、矢の先端に取り付ける石鏃せきぞくや、肉や木の実を調理する石器や土器がみつっています。特に石器の材料となる石材（サヌカイト）の破片が多く出土したことから、この場所で石器を作っていたと考えられます。



写真1 石器（上段）と石器の材料となるサヌカイトの破片（下段）

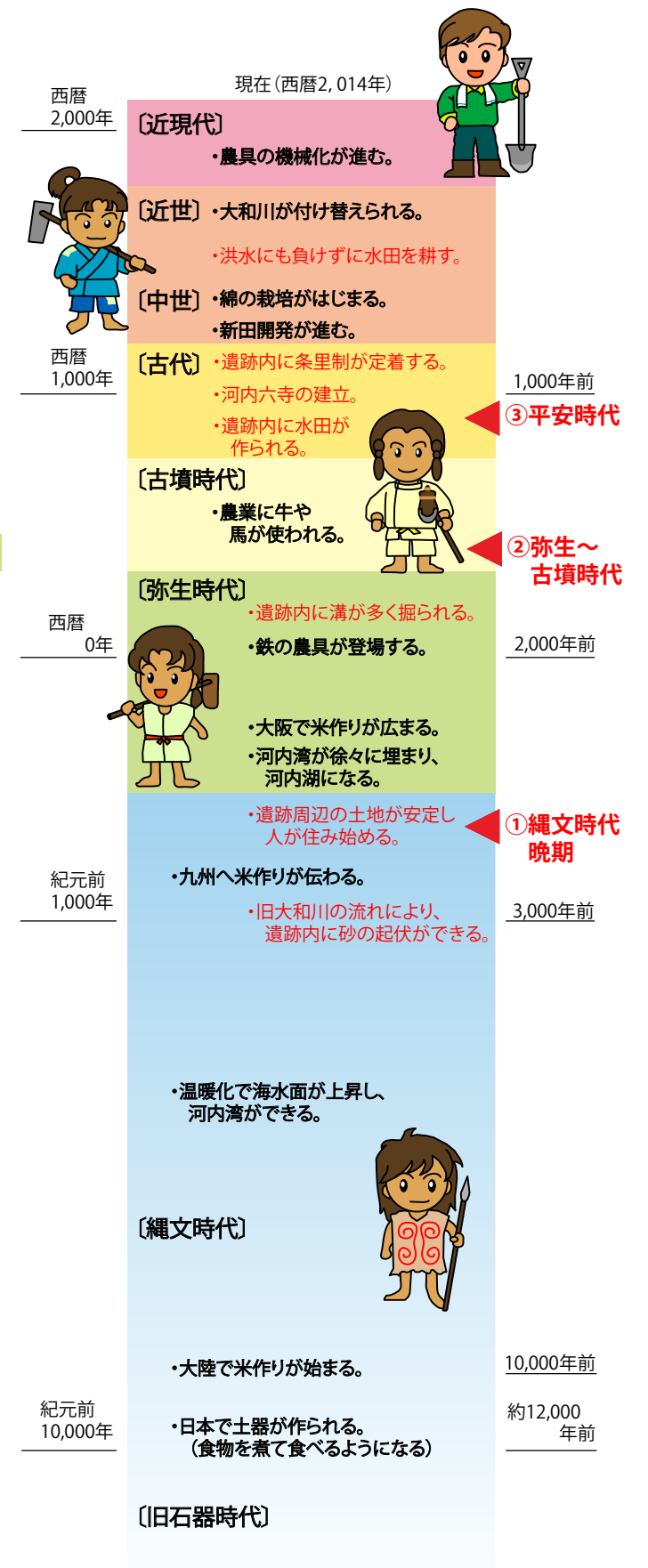


図2 時代の流れと主なできごと
※赤字は大県郡条里遺跡に関連すること



図3 縄文時代晩期～古墳時代後期の遺構面全体図

② 弥生時代～古墳時代（紀元前5世紀～6世紀頃）

弥生時代になると、それまでとは異なる土地の利用がはじまったようです。今回の調査では、調査区の南東から北・西方向へむかって流れる多くの溝がみつかりました。重なり合うものが多いこと、また出土遺物の年代が幅広いことから、溝は同時期に掘られたのではなく、長い期間をかけて少しずつ方向を変えながら、掘りなおされたと考えられます。

溝に堆積した土を観察すると、ゆるやかに水が流れた痕跡があるもの、時間をかけて埋まったもの、周辺の土を集めて埋められたものなどがありました。

これらの溝が何のために掘られたのかは、まだわかりませんが、水田の畦と思われる高まりが同じ方向にのびていることから、地形の起伏にあわせた土地利用がされていたと考えられます。



写真2 古墳時代後期の溝群（6世紀後半）
※複数の溝が重なって発見されました

③ 奈良・平安時代（8世紀～10世紀頃）

この地域の先進性が目立ち始める奈良時代、遺跡内の景観は大きく変化します。東南から北西に向かって下がるそれまでの地形とは異なり、南北方向を意識した水田が作られました。畦は規則的に並んでおり、これ以後ほとんど変わることなく、方形に整えられた水田が作られ続けます。このため、遅くとも10世紀までには条里制が取り入れられたと考えられます。

水田の土の中からは、奈良時代（8世紀）の遺物が多く出土しました。文字や模様を墨で描いた容器のふた（写真5）や、硯のかわりに使った土器、日本で最初に量産され流通した銭貨「和同開珎」^{（ほう）}（写真6）など、当時の役所や寺院で使われた品々が目立ちます。このため、調査区周辺にこのような施設が存在した可能性が考えられます。



写真3 平安時代（10世紀頃）の水田
※方位を意識した水田が作られました



写真4 銅製の耳環（古墳時代？）
※指輪の可能性もあります



写真5 水玉模様が描かれた土器
（奈良時代 8世紀）



写真6 「和同開珎」^{（ほう）}（奈良時代 8世紀）
※日本で最初に量産された銅銭



写真7 銅製の鈴
（奈良～平安時代 8～10世紀）



写真8 平安時代（10世紀頃）の土器
※ほぼ完形で出土しました。